

平成30年7月20日

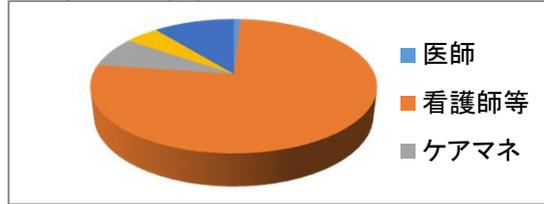
「最期までその人らしく生きるを支える 意思決定を支援する医療・介護関係者の役割」 講演会アンケート

石垣靖子氏：北海道医療大学名誉教授、日本看護管理学会監事 出席者151名 アンケート回収数110名 回収率72.8%

あなたの職種は

医師	1	1%
看護師等	84	76%
ケアマネ	8	7%
介護士	5	5%
その他	12	11%
計	110	

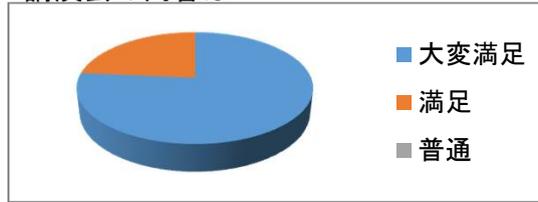
あなたの職種は



講演会の内容は

大変満足	84	76%
満足	26	24%
普通	0	
やや不満	0	
不満	0	
計	110	

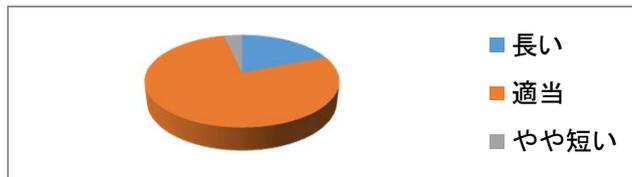
講演会の内容は



講演時間は

長い	21	19%
適当	85	77%
やや短い	4	4%
短い	0	
計	110	

講演時間は



開催した時間

良い	104	95%
他の時間	6	5%
計	110	

開催した曜日

良い	108	98%
他の曜日	2	2%
計	110	

《感想》

- ・患者・家族にとって「最も良いこと」は何かを看護師はあきらめてはいけない。押し付けてもいけない。
- ・外来の重要性、家族へのかかわり、病院という管理せざるを得ない中では患者の意思を尊重し寄り添う看護をどう取り組むか、当院でどれだけ出来るのか考えたい。
- ・相手の記憶に感情を残すこと。外来が主体になるという事。看護師としての責任(決定について医師に丸投げしない!)などの言葉が印象的でした。
- ・ACPIについて必要な気づき、課題を頂きました。
- ・認知症の方々には感情が残っていること。身体拘束をしない。臨床の場が実現出来る事。今後、外来看護は重要でさらに学ばなければなどなど、多くのことを知ることが出来ました。
- ・訪問看護をしていて、その人の人生の一部に病気があるのでその人らしさを大切に看護をしていきたいと思ってます。今日の講演を聞いてそこをブレずに看護をしていこうと改めて感じました。
- ・看護師とケアマネジャーのアプローチや対応の仕方が違う事を再認識しました。だからこそスクラムを組んだ時にその人にとってその人らしく生きることをささえる手助けが出来るのだと思いました。
- ・体だけ見るのではなく「その人自身を見る」「QOLを尊重する」が大事だということを再認識しました。
- ・感動しました。ステキな職を選べた自分に自信を持ってました。ありがとうございました。
- ・もう少しこの仕事 頑張ってみようと思いました